

⑬ 鎌倉都市マスタープランへ策定への市民参加

1 鎌倉市における市民参加の取り組み

鎌倉市では昭和四十年前後に緑を守る市民運動（「古都における歴史的風土に関する特別措置法」成立のきっかけとなった）が起これり、また昭和四十八年には市民自治をうたう「鎌倉市民憲章」を制定しているなど、市民意識の高い町であるが、それでも、市政への市民参加は十分とは考えられていなかったようである。

しかし近年は全国的に、まちづくりへの市民参加の必要性がうたわれており、平成五年に当選した現市長は、市民参加の推進に力を入れ、総合計画の策定をはじめ、様々な計画づくりに積極的に市民参加を導入するようになった。また平成七年には、市民参画のまちづくりを規定したまちづくり条例も制定している。

2 市民ワークショップへの発進

このような状況の中で、都市計画に対する基本的な方針として「鎌倉都市マスタープラン」を策定することになったが、このマスタープランの根拠となる都市計画法でも住民の意

見の反映を明確に位置づけている。

以上のようなことから、都市マスタープランへの積極的な市民参加の導入は自然な流れであった。市民参加で、鎌倉独自のマスタープランをじっくりつくろうと、全体スケジュールは平成六年度から九年度の四か年をかけることとした。その前半は「素材作成」期間、後半は「マスタープラン策定」期間である。

前半は、学識経験者と行政による調査委員会が正式な検討組織であるが、平成六年度は直前の総合計画策定のための地域別懇談会の意見の集約や市民団体ヒアリングを行い、平成七年度は、「素材」のうち、市民の身近な生活環境を扱う地域別方針を市民参加で作成していくことが決められた。

どのような方法で行うかについては様々な議論があった。特に、都市マスタープランでは具体的な都市像を描く必要があり、緑の保全と開発、土地利用の保全と高度化など、市民と行政、市民同士で対立しがちな問題を、感情的にならずにどう議論していけるかについて不安があったからである。

しかし、対立しがちな問題こそ、従来の説明会方式から少人数の対話型の方式で行い、共に考え、共に取り組もうという姿勢を見せる必要がある、との認識からワークショップ

方式が採用された。

3 「運営委員会」をつくる

少しでも理想の「協働」に近づくため、ワークショップの企画・運営も、行政・市民と専門家の協働で行うことが決められた。このため、二十歳以上の市内在住・在勤・在学者を対象に、広報で募集し、個別の呼びかけも行った。その結果市民十二名が集まり、在住の専門家（行政が協力を要請）五人、行政の担当職員と作業班が加わって運営委員会を構成した。

運営委員会は、第一回市民ワークショップの前に三回、その後は各ワークショップの前に一〜二回ずつ開催した。運営委員会初日は十月の休日の午前十時から午後三時まで（その後は平日夜の二時間程度）で、ポストイット出しなど、ワークショップ方式のグループ討議を行った。また昼休みは時間を十分にとり、屋上からまちを眺めながら雑談、親睦を深めた。全体として非常に和やかな雰囲気であり、この日を無事に終えたことで、事務局は大いに安心した。

運営委員会方式を採用したことは、以下のような利点があったと言える。

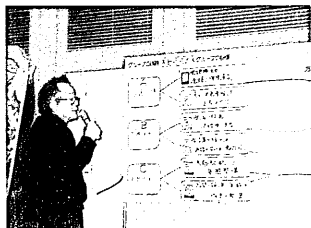
データ

事業主体	鎌倉市都市部都市計画課
策定期間	平成6年度～平成9年度
検討機関	平成6、7年度／策定調査委員会 平成7年度／市民ワークショップ (運営委員会9回、WS4回)

第1回：11の地域別に分かれ、好きな場所、嫌いな場所、課題などを自由に出し合った。



第2回：1回目成果をもとに、地域別に取組の目標を練った



- ① ワークショップでの市民との対話に関する不安感がかなり払拭できたこと
- ② 各回の市民ワークショップに、市民の感覚を取り入れたプログラムづくりができたこと
- ③ 行政と市民の協働の経験が今後のまちづくりにつながる可能性を開いたこと

4 市民ワークショップの進め方

市民ワークショップは、平成七年十一月から平成八年五月にかけて合計四回開催、いずれも土日で初回は全日、二回以降は半日で行った。四回のワークショップは同じ参加者に継続して参加してもらい、一連の流れとして構成した。最終的には、地域別方針のたたき台をつくることを目標とし、一つの会場で十一の地域別のテーブルに分かれて討議した。

対象は、中学生以上の市内在住・在勤・在学者とし、広報で募集したほか、ちらしを作成し運営委員や市民団体、町内会など様々なルートを通じて声をかけ、毎回六十〜七十名の一般市民が参加した。各テーブルに六人前後の市民と三人のスタッフ（運営委員、専門家、行政）がつくという構成である。

第一回は、地域の課題についてのポストイット出しと課題図作成、主要課題の抽出。第二回は、地域の目標と目標実現のための方法をカードや地図を使って議論。第三回は視点を換え、グループも各地域混成として、市全体の課題についての市の情報提供とフリーディスカッション。第四回は、これまでの議論を踏まえて事務局が作成した地域別方針のたたき台について修正を加える作業を行った。ま

た第三回と第四回の間には有志によるタウンウォッチングを開催している。各回の様子はかわら版を作成して参加者や市民に配布した。

5 参加した市民の声

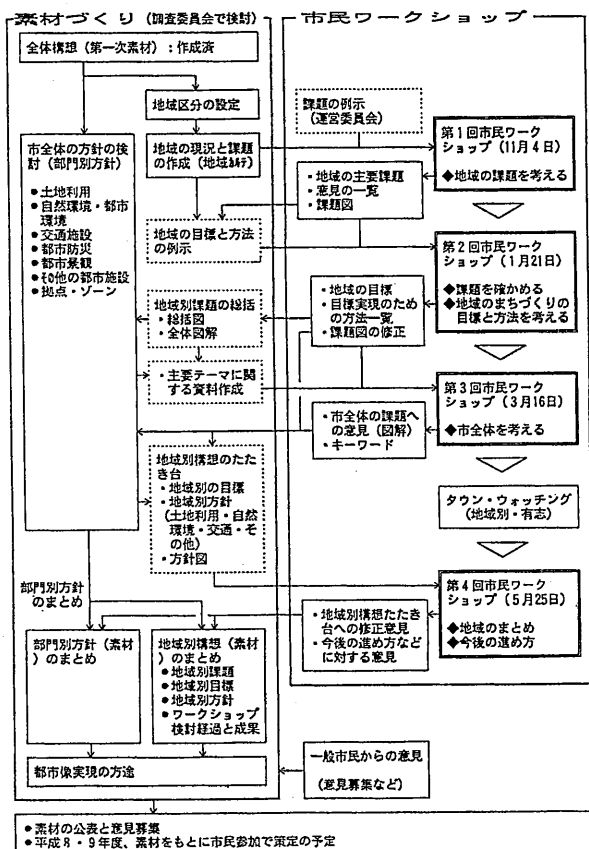
参加した市民には毎回感想をアンケートしているが概ね好評で、市民と行政がフランクに話し合える場として評価されたようである。しかし、限られた時間の中で議論に、「言い足りなかつた」「もっと議論したかつた」という声も多い。また、まとめとしては良いが、この結果が実際のまちづくりにどう生かされるのか、という意見もあつた。今後の市民とのやりとりが重要になってくるだろう。

6 今後の課題

都市マスタープランづくりはまだ途中の段階である。今後、このワークショップの成果を生かして、まず「素材」としてまとめ、市民に広く公表していくこと、そして平成九年度末をめざして、この素材を市民とともにさらに叩き、市民と行政、市民同士の意見を調整しつつ、マスタープランとして策定していく作業が予定されている。

しかし、さらに重要な課題は、マスタープランを受けて、実際のまちづくりを市民と行政でどう動かしていくかであろう。運営委員会と市民ワークショップでの体験が、行政と市民の相互の信頼を育てる芽となり、今後の協働のまちづくりに生かされることが期待される。

図 全4回のワークショップの流れ



第3回：今までの地域別グループを一旦解散し、新たに8グループに分かれて地域別議論を踏まえ市全体について討議した。



第4回：今までの成果をもとに作られた地域別方針（市民WS案）について検討し、まとめた。

